

ゴールまであと10年

なぜ企業は SDGs に取り組む必要があるのか。
どうすれば事業に反映できるのか。

4人のパネリストがそれぞれの立場から意見を交わした。
(2019年10月4日開催、日外協「SDGs フォーラム」から)



司会・黒田秀雄 (一助)日本総合研究所 特任
研究員) 社会課題の解決に向けた SDGs の 17
の目標を達成するため、企業の参画が大いに期
待されています。

はじめに、4人のパネリストに企業が SDGs
に取り組む目的と意義などについてそれぞれお
話をうかがいたいと思います。



(くろだ・ひでお)

東京海上火災保険㈱で30年間勤務後、退職。
2004年4月東京富士大学短期大学部教授に就
任。その後東京富士大学教授となる(担当科目:
経営戦略論、専門ゼミ、初年次教育)。定年退職
後、17年4月から現職。「BOP ビジネス研究会」
代表幹事。著書「わかりやすい現地に寄り添う
アジアビジネスの教科書」(白桃書房刊)など。

企業の業績・株価・資産価格向上 —SDGs とこれからの日本企業

株式会社イースクエア 取締役 田村賢一



(たむら・けんいち) 監査法人トーマツグルー
プにて、CSR・環境マネジメントコンサルティング、
人事コンサルティング、ビジネススキル講師等に従
事した後、2010年からイースクエアに参画。現在
は海外展開・事業開発コンサルティングの責任者と
して、大中小企業を対象に市場調査、フィージビ
リティスタディの実施、BOP/SDGs ビジネスの事
業開発などの分野で支援を行う。15年から現職。

企業が SDGs に取り組む理由として次の 5
点を挙げるすることができます。

第1にビジネス機会の見極め。SDGs 課題に
対し革新的な技術や解決策を提供することは、
ビジネス機会そのものなのです。

第2に企業の持続可能性に関わる価値の向
上。自社バリューチェーンに持続可能性への配
慮を組み込むことによって、ブランド力強化、

事業効率アップ、従業員の離職率引き下げなど
自社の価値を上げることができます。

第3にステークホルダーとの関係強化。

第4に社会と市場の安定化。SDGs は貧困層
をはじめとしたターゲット市場の拡大につな
がります。

第5に SDGs という共通言語の使用と目的
の共有。ステークホルダーとの効果的な対話
ができるようになるでしょう。

世界経済フォーラムによると、SDGs を達成
することでもたらされる市場機会は、「食料と
農業」「都市」「エネルギーと材料」「健康と福
祉」の4分野だけで30年までに12兆ドル(約
1300兆円)、とてつもない規模です。

一方、投資家サイドでは、投資先の環境・社
会・ガバナンス(ESG)側面を投資判断の際に
考慮するようになってきました。こうしたサ
ステナブル投資の残高は18年に世界全体で30.7
兆ドル(約3300兆円)、16年の22.9兆ドル(約
2500兆円)から2年間で約30%も増加しまし
た。投資家が受託者責任を果たす上で、SDGs
は考慮しなくてはならない重要な ESG 要因だ
ということを物語っています。SDGs の達成は
世界経済の成長をもたらす、企業の業績向上や
株価・資産価格向上の追い風になる。魅力的な
投資機会をもたらす、長期的な運用成績確保に
つながるでしょう。一方で、環境破壊、社会不
安など、現在は外部コストとされている要素は
将来、企業会計に組み込まれる可能性がありま